

2002年度

講義計画

桃山学院大学

四

十

義

請

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの詩——言葉のひびき		春学期	2 単位	岡田 章子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イギリス文学のさまざまなジャンルの中でも、詩はきわだってすぐれている。現代のあわただしい社会においても、詩の美しさは人々の心をとらえる。2000年度には同じ講義科目で A First Book of English Verse を扱ったが、本年度はその第2篇を講じる。少しレベルは高くなるが、より内容の深い作品が多い。テキストにはシェイクスピアの劇の中で歌われたもの、牧師が乙女たちに呼びかけたやさしい言葉、難解と言われるミルトンの思いがけず親しみやすい語り、古典的な数々のソネットなど、様々な詩が含まれて読者を招く。16世紀から19世紀までの英詩の中から親しみやすいものを読みながら、内容を把握すると共に言葉の美しさを鑑賞できるようになることを目標とする。その過程で、英詩の基本的知識をも学ぶことを期待する。</p> <p>学生は言うまでもなく毎時間きちんとして出席し、作品を読んで、習った詩は暗記する位に繰り返して音読してほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩の流れ 2. 英詩の基礎 3. エリザベス朝の詩 4. シェイクスピア 5. ミルトン 6. ロマン派の詩 7. ビクトリア朝の詩 8. ソネット 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期テスト・平常点</p>		<p>[参考文献]</p> <p>Babette Deutsch : <u>Poetry Handbook: A Dictionary of Terms</u> (Barnes & Noble Books)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>中西信太郎編 A Second Book of English Verse (英宝社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの小説 (G. エリオットを読む)		秋学期	2 単位	中 村 祥 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>19世紀イギリスの女性作家たちの中で、AustenやBrontë姉妹は特に有名で、イギリス小説に関心のある学生なら、『自負と偏見』や『ジェーン・エア』『嵐が丘』などを読んだことがあると思われる。この講義で扱うGeorge Eliotは、同じく19世紀に活躍した女性作家で、日本では上記の作家たちほどには名前が知られていないが、実際には素晴らしい読みごたえのある小説をたくさん書いた優れた作家である。Eliot の小説の魅力の一つは、その思想性の深さにある。それは、彼女が何を小説のテーマに取り上げているか、そのテーマの扱い方がどんなに理知的であるかという点によく示されている。Eliot の魅力のもう一つは、作品に描き出される様々なイメージが、鮮明でリアルである点にある。しかもほとんどの物語が恋愛をとおして描かれており、ストーリーの分かりやすさと面白さは抜群である。この講義では、こうしたEliot の小説をとおして、広くイギリス小説の特質を明らかにしていくだけでなく、優れたイギリス小説を読むことの意義を考えていく。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>George Eliotの長編小説Silas Marnerを左記の講義概要に沿って論じると共に、作者の意図を正確に把握するために、この作品の核心部分を原文で読んでみる。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績、平常の成績の総合評価による。平常の成績には、出席状況の他に、指示した読了文献(テキスト、プリントなどを含む)をとれだけ真面目に読んできたかも加味する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>George Eliot 著 木村 ふみ 解説注釈 Silas Marner (研究社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの演劇 シェイクスピアの恋愛劇		春学期	2単位	小野良子
〔講義概要・学習目標〕 『ロミオとジュリエット』の恋物語を読む 多感で情熱的、無分別で自己破壊的な若者たちの駆け抜けるような恋を描いた恋愛劇の古典的作品、『ロミオとジュリエット』を読む。ロミオとジュリエットの運命的な出会い、秘密の結婚、行き違いと誤解から迎える死一が、美しく豊かな台詞で展開していく。講義では、想像力に富んだシェイクスピアの台詞を言葉と音声の両面から楽しみたい。	〔講義計画〕 1. 概論 2. ~ 10. 講読 + 映画 11~12. まとめ			
〔成績評価の方法〕 小エッセイ(講義ごとに提出)+ロングエッセイ(学期末に提出)	〔参考文献〕 授業中に紹介する			
〔教科書〕 W.Shakespeare, <i>Romeo and Juliet</i> (研究社小英文叢書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの小説 メルヴィルの『白鯨』		春学期	2単位	佐々木 英 哲
〔講義概要・学習目標〕 白い化け物のような巨大鯨に片足を食いちぎられたことで怒り狂い、執念でその鯨を追い求め、破滅するAhab船長と船員達の物語である、Melville(1819-91)の代表作『白鯨』(<i>Moby-Dick; or The Whale</i> , 1851)を取り上げる。『白鯨』は、メルヴィル世界に於いて前期と後期との分水嶺に位置する重要な作品である。 さて、すぐれてアメリカ的というべきか、はたまた、旧約聖書に言及のあるノアの方舟のパロディというべきか、捕鯨船ピークオッド号には、さまざまな人種の奇人、変人が船員として乗り込んでいる。ピークオッド号では、アメリカ資本主義/帝国主義を支える人種・階級・ジェンダーのイデオロギーに基づく秩序/価値が強化される反面、そのような秩序/価値が転倒する異次元的なカオスも展開している。そこで我々としては、存在感の大きいエイハブ船長にばかりに眼を奪われるのではなく、彼の背後で進行する動きにも眼を注ぎたい。そして、先行する研究結果を踏まえつつも、恐れず怯まず、独自の視点を持って作品に臨んでみたい。受講生は教わることをひたすら待つのではなく、問題意識をもって自分から働きかけてほしい。 なお、佐々木ゼミの受講生には、この授業を受講してほしいと思っている。	〔講義計画〕 見での通り『白鯨』は長編大作であって、ただかか半期、12~3回程度の授業で、いくら足掻いてみたところで歯が立つ代物ではない。授業では、物語の「さわり」と思われる箇所について、原典で読むことになる。流れをつかむためには翻訳を参考にしてもかまわないが、読むに際して、翻訳(者の解釈)に囚われることなく、真正面から英語原典に取り組み一徹なまでの態度を大切にしたい。前もって十分な下読みをしておかない限り、つまり自助努力をしない限り、外国語で書かれた文学からは何も生まれてこないからだ。また、将来的に他分野、他領域で実践的应用を図ろうとするならば、このような基礎的トレーニングは欠かせない、と申し添えておく。 毎回の授業では具体的な読みの作業に入る前に、読むべき指定箇所が入っている章と前後章のアウトライン及び問題点を、レポーターに指摘してもらうことになる。レポーターはハンドアウトを用意し、口頭で発表する。この時、勘所については英語によるオーラル・プレゼンテーションを試みてほしい。時間配分としては、レポーターによる報告に3分の1、読みの作業に残りを当てる。 余裕があればの話だが、アメリカの研究者による『白鯨』を論じた評論も読んでみる。読みの戦略としてはパラグラフ・リーディングを実践に移し、「くどき」となる部分を的確に、かつ迅速に捕捉する訓練を積みたい。			
〔成績評価の方法〕 読解力をみる試験、学期末。通常の授業時に時間を少し割いて行う試験、複数回。レポート提出(本文は和文、要約は英文)。レポーター担当などの授業貢献度。授業参加度(出席は毎回とするが、参考程度にとどめる)。	〔参考文献〕 Brodhead, Richard H., ed. <i>New Essays on Moby-Dick or The Whale</i> . New York: Cambridge UP, 1986.			
〔教科書〕 Melville, Herman. <i>Moby-Dick; or The Whale</i> . Penguin.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの演劇 (アジア系アメリカ演劇)		秋学期	2単位	伊 藤 貞 基
[講義概要・学習目標] 多元文化主義以降、アメリカではエスニック文学が隆盛をきわめ、従来からの西欧中心主義が盛んに脱構築されている。アジア系アメリカ演劇も例外ではない。エスニック文学が示す「周縁から中心へ」の動きを、中国系アメリカ人劇作家 David Henry Hwang のアジア系作家としては初のトニー賞受賞作品 <i>M. Butterfly</i> (1988) を通して検証してみる。この芝居は、ブッチーニの有名なオペラ『蝶々夫人』を見事に脱構築したものである。	[講義計画] 100頁あるので、速読を加えながらかなりのスピードで精読していく。読み進みながら、随時、この作品が取り上げている西洋と東洋、男性と女性、異性愛と同性愛といった問題について議論を行う。			
[成績評価の方法] 平常点と筆記試験、レポートによる。	[参考文献] 一ノ瀬和夫/外岡尚美編著『境界を越えるアメリカ演劇』 ミネルヴァ書房 2001			
[教科書] David Henry Hwang, <i>M. Butterfly</i> . A Plume Book				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米のエッセイ——ユーモアの味わい		秋学期	2単位	岡田 章子
[講義概要・学習目標] イギリスのエッセイはモンテニユからベーコンに伝わり、19世紀のラムの『エリアの随筆集』によって完成された。ラムの随筆は個人の内面の生活を記し、さまざまな話を積みかけながら、全体に流れるほのぼのとしたユーモアと情愛でまとまりをつけている。20世紀に入るとエッセイはこれらの伝統の上にさらに深く人間を観察し、批判するようになっていく。その代表に、ガーディナーやリンドやミルンらがあるが、本講義では『蠅の王』という小説で知られるゴールディングの随筆を読んで、作者の誠実な人間への情愛と、その中に見られるユーモアを味わいたいと思う。テキストには、がき大将の楽しみを描いた「ビリ・ザ・キッド」、少年の感受性と優しさに満ちた「梯子と木」、古代エジプトに魅せられた少年期を描く「わが内なるエジプト」など読んで楽しい作品が含まれる。 学生は毎時間作品を読んで、自分なりの感想を持って授業に出席してほしい。できれば他の作者の随筆を読んで、比較できる位になることを期待する。	[講義計画] 1. エッセイとは 2. エッセイの歴史 3. W・ゴールディングの紹介 4. "Billy the Kid" 5. "The Ladder and the Tree" 6. "Egypt from My Inside" 7. "Crosses" 8. まとめ			
[成績評価の方法] 定期テスト・平常点	[参考文献] W・ゴールディング 『蠅の王』 (集英社)			
[教科書] W・ゴールディング 『ゴールディング随筆選』 (開文社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅰ（統語論入門）		春 学 期	2 単 位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] 本講では、英語の文の基本的な構造を作り出す仕組みを、「節」という単位を中心に論じる。節を構成するための基本的な考え方とどのようなものか、また基本的道具立てとしてどのようなものが必要で、何が可能なのかを探りたい。また、それらの道具立てを準備する中で人間言語を特徴付ける「局所性」にとくに注目することにした。狭義の文法としての統語論に対する興味関心を醸成する一助となれば幸いである。出席はとくに重視する。	[講義計画] 1. 言語知識と「文法」 2. 項構造：主題構造/局所性と主題構造 3. 句構造：節とその構成素/語と範疇/句 4. 文法機能と格：代名詞と形態格/格フィルター/格付与と局所性 5. まとめ			
[成績評価の方法] 原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	[参考文献]			
[教科書] フリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅱ（英語の統語現象）		秋 学 期	2 単 位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] 本講では、英語における実際の統語現象を整理することから話しをはじめたい。そうして、整理したデータに対してどのような分析が考えられるのかを模索してみたい。とくに疑問文、関係詞節、受身文を中心にして若干の移動分析を提示する。なお、この作業の中で「局所性」という概念が移動ということとどのように関わり、また、それが文法構築の全てのなかでいかなる意味をもつのかを論じたい。出席はとくに重視する。	[講義計画] 1. 基本データの整理 2. 疑問文： 直接疑問文：yes-no疑問文/構成素疑問文 間接疑問文：yes-no疑問文/構成素疑問文 3. 関係詞節 4. 受身文と繰り上げ 5. まとめ			
[成績評価の方法] 原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	[参考文献]			
[教科書] フリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
意味論（意味論の基礎概念）		春学期	2 単位	林 宅 男
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
「意味論」は、語や文が表わす内容を研究する分野である。「意味」に関する研究には二つの大きな流れがある。一つは、記号論理学の成果を取り入れた形式意味論等に代表される「客観主義の意味論観」である。もう一つは意味を脳の精神作用の働きとの関係でとらえ、自己の経験に基づく主観的情報処理にかかわる問題であるとみなす「認知主義の意味論観」である。今回は、近年の認知科学の発展と平行して注目を浴びている後者の理論の基礎的内容を扱う。	講義計画 (1) 意味論の分野と立場の紹介 (7) 認知文法 (2) 認知意味論とそのアプローチの特徴 (8) メタファー理論 (3) 範疇とプロトタイプ (9) メンタルスペース理論 (4) 認知モデルの種類 (10) 構文研究 (5) 範疇化モデルの種類 (11) まとめ (6) イメージスキーマ			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	1. 杉本公司（著）「意味論2」一日英対照による英語学演習シリーズ8 くろしお出版、1998年 2. プリント 参考文献 1. 河上哲作（編著）「認知言語学の基礎」研究社、1996年 2. 山梨正明（著）「認知文法論」ひつじ書房、1995年 3. その他授業中に紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語用論（語用論の基礎概念）		秋学期	2 単位	林 宅 男
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
文脈とは関係なく言語の意味を研究する「意味論」に対して、「語用論」は言語使用場面での意味を扱い、我々は言語を使ってどのように意志疎通を図るかに関するを研究をする分野である。近年この研究分野の領域は多岐にまたがり、単に文法事象の文脈の説明や発話意図の研究にとどまらず、言語使用における認知的、社会的、文化的側面を取り入れた学際的なものに発展している。今回は、従来取り扱われてきた研究領域の解説が中心となるが、最近の分野についても部分的に紹介する。	講義計画 (1) 語用論の領域について (7) 発話解釈の原理 (2) 言語使用と文脈 (8) 認知的語用論 (3) 文法研究と語用論 (9) 対人コミュニケーションにおける語用論 (4) 情報構造 (10) 社会／文化研究における語用論 (5) 直示性 (11) まとめ (6) 発話行為			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	1. ジェニー トーマス（著）田中典子他（訳）「語用論入門」研究社、1998年 (Jenny Thomas, 1995 "Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics". London: Longman) 2. ヤコブ メイ（著）沢田治美、高司正夫（訳）「言葉は世界とどうかわるか：語用論入門」ひつじ書房、1996年 (Jacob L. Mey, 1993 "Pragmatics: An Introduction" Oxford: Blackwell) 3. レビンソン（著）安井稔、奥田夏子（訳）、研究社「英語語用論」1990年 (Stephen C. Levinson, 1983 "Pragmatics" Cambridge: Cambridge University Press) 4. その他授業中に紹介する。			
[教科書]	1. 高原脩、林宅男、林礼子（共著）「プラグマティクスの展開」、勁草書房 2. プリント			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅰ 米思想の源流		秋学期	2単位	佐々木 英 哲
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>アメリカ思想の源は、なんと言っても十七世紀植民地時代のPuritanismと 十九世紀のEmerson(1803-82)、Thoreau(1817-62)に遡ることができるだろう。本講座では、エマソンとソローにスポットを当てる。</p> <p>力強くも脚かしい正統的アメリカ思想の流れが逆り出ているのが、この二人からだと思えば、彼らからの強力な磁力に引き付けられつつも、彼らの思想をいびつな形で吸収し、それを伏流水として放出しているのが、Hawthorne、Melville だと言える。ホーソーンやメルヴィルを理解するためにも、エマソン、ソローを無視するわけにはいかないだろう。また、ある意味で、エマソン、ソローの思想が、第二次世界大戦後のアメリカの公民権運動や、はたまたヒッピー文化に至るまで命脈を保った、という事実を思い起こせば、彼らの影響力たるや、いかに強固であったか、察しがつこうというもの。</p> <p>ここでエマソン、ソローを簡単に紹介しておこう。エマソンはユニテリアン教会の牧師を三年で辞し、執筆と講演活動に入った。彼は、アメリカが欧州から文化的独立を果たし、アメリカ自身のピューリタンの伝統そしてリベラルなユニテリアン思想さえも乗り越えるように求めた。さらに、人格尊厳を基本とする民主主義精神と、個人の内的直感を重んじるようにと叫んだ。エマソン家に寄宿したこともあるソローは、エマソンの「自己への信頼」を実践に移すべく、コンコード郊外のウォールデン湖畔で自給自足的な生活をしつつ、『ウォールデン』を著した。また彼は、奴隷州の拡大を怖れて米墨戦争に非暴力、不服従をもって反対し、そのラディカルなスタンスを「市民の抵抗」で明らかにしてみせた。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>洗練された超一級の英語のテキストから、織り込まれている思想を掘り上げる作業が中心となる。あらかじめ念入りに下読みをしたうえで授業に臨まない限り、出席だけでも効果はあまり期待できないので、受講する場合はその心積もりでいてほしい。下読みができない場合は、お引き取り願いたい。その思想なるものを掘り上げたら、それを自分の言葉で読み直し、表現する（レポーターとしての口頭発表、および和文・英文によるレポート）ことになる。言うまでもないが、他分野、他領域で実践的に応用転換のきく英語読解力、英語表現力向上を目指すことも、本講座の将来的な目標の一つとして、射程範囲に組み入れてある。</p> <p>時間配分としては、エマソンに3分の2、ソローに3分の1を割り当てる。次のうちから重要箇所を抜粋して読んでみる。</p> <p>エマソン：『自然論』(Nature, 1836)、 『神学校における講演』(“The Divinity School Address,” 1838) 『自恃論』(“Self-Reliance,” 1841) ソロー：『市民の抵抗』(“Civil Disobedience,” 1849) 『ウォールデン』(Walden, Life in the Woods, 1854)(ただし、2001年に開講した授業「英米のエッセイ」で読んだ部分は取り上げない。)</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>読解力をみる試験、学期末。通常の授業時に時間を少し削いで行う試験、複数回。レポート提出。授業参加度。出席は毎回とるが、参考程度にとどめる。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>Thoreau, Henry David. <i>The Portable Thoreau</i>. Ed. Carl Bode. New York: Penguin, 1982.</p>			
<p>【教科書】</p> <p>エマソンは生協で購入のこと。 Emerson, Ralph Waldo. <i>The Portable Emerson</i>. Ed. Carl Bode and Malcolm Cowley. New York: Penguin, 1981. ソローについてはコヒー配布の予定。(参考文献の欄参照)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅱ (小説の読み方)		秋学期	2単位	中 村 祥 子
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>文学に何らかの関心を持ち、積極的に学んでみようと思う時、英米文学は格好の対象である。特に19世紀以降の近代小説には、現代に生きる者たちが今なお自分たちの問題として考えることのできる様々な事柄が、主人公たちの生き方を通して興味深く表現されている。背景として描かれる社会の状況は、今日の日本の状況とよく似ており、主人公たちの喜び、悩み、苦しみ等も、今日私たちの経験するものとほとんど変わらない。</p> <p>この講義では、そうした英文学のひとつとして、特にKatherine Mansfieldの短編小説を取り上げる。Mansfieldは、ニュージーランド生まれの作家で、繊細な感覚と鋭い感受性で、現代社会の孕んでいる多くの問題を描き出した作家である。このMansfieldの小説を具体的に読んでいくことを通して、文学作品の読み方を様々な角度から論じ、さらに現代において優れた文学作品を読むことの意義と真の面白さを考えてみたい。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>数多いMansfieldの短編小説の中から特に7編の作品を取り上げ、それを左記の講義概要に沿って論じる。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験の成績、平常の成績の総合評価による。平常の成績には、出席状況の他に、指示した読文献(テキスト、プリントなどを含む)をどれだけ真面目に読んできたかも加味する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>Katherine Mansfield 著 木村 公一編注 <i>Seven Short Stories</i> (三修社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学V 幸福な結末		秋学期	2単位	小 野 良 子
[講義概要・学習目標] 恋の『から騒ぎ』を<読む> 他人のうわさでいかに簡単に人間の物の見方が代わってしまうかーシェイクスピアの恋愛喜劇を題材にして、他者の言葉で微妙に揺らく人間の心理、特に若い男女の人間関係の機微、恋愛模様について考える。シェイクスピアの作品は台詞の巧みさで聴かせる芝居だが、この劇も、男嫌いの勝気で聡明な娘ベアトリスと女嫌いで皮肉屋のベネディックが展開する知恵くらべの口喧嘩が見どころで、講義でも台詞の面白さに注目したい。	[講義計画] 1. 概論 2～10. テキスト + 映画 11～12. まとめ			
[成績評価の方法] 小エッセイ(講義ごとに提出) + ロングエッセイ(学期末に提出)	[参考文献] 授業中に紹介する			
[教科書] W. シェイクスピア、『から騒ぎ』 (白水ブックス)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学VI (メタフィクション)		秋学期	2単位	伊 藤 貞 基
[講義概要・学習目標] メタフィクションとは、小説の持つ虚構性を認知あるいは主張しようとする小説のこと。従って、この小説は、読者を作者の創作の現場に立ち会わせたり、現実世界と小説の中に描かれる虚構の世界との関係を読者に考えさせたりする。このような性格を持つメタフィクションの種々相をまず概観し、次いで具体例として、アメリカの小説家ロバート・クーヴァーの "The Magic Poker" を読む。	[講義計画] 前半では、メタフィクションとは何か、および、メタフィクションとしてのクーヴァーの考え方や特徴を考察する。後半では、クーヴァーの "The Magic" を分析し、メタフィクションの真髄に迫る。			
[成績評価の方法] 平常点、定期試験時の筆記試験あるいはレポート。	[参考文献] 授業中に随時紹介する。			
[教科書] ハンドアウトを使用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語史		春学期集中	4 単位	野 原 康 弘
[講義概要・学習目標] イギリスを旅してまわると、いろいろな場所で、いろいろな民族が残したのを見ることができる。南西部のソールズベリー平原には、ケルト民族以前の住民たちの遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎のまま残されている。ケルト民族伝説のアーサー王の城だったいわれているものは、いたるところにある。イングランド北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約2千年前のローマ人の支配の強さを今なお見せている。東部の海岸は「サクソン海岸」と呼ばれ、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院」はヴァイキングの侵略の激しさを物語っている。おびたしい数の「フランス語からの借用」は1066年以後、約300年以上のノルマン人の支配を知らしめている。 このような外的な歴史の変化にともなう、英語という言語がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。したがって、この講義では「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学んでいくことになる。		[講義計画] 1. 英語の祖先語 2. ケルト民族の遺産 3. ローマ人による征服 4. ゲルマン人による征服 5. 英語の始まり 6. 古期英語 7. ヴァイキングによる征服 8. ノルマン人による征服 9. 中期英語 10. チョウサーの英語 11. 近代英語の始まり 12. 英国のルネサンス 13. シェイクスピアの英語 14. 聖書の英語 15. 近代英語後期 16. 語形成 17. 意味の変化 18. 統語法の変化 19. アメリカ英語 20. 世界の英語 (事情により講義の順序が変わることがあります。)		
[成績評価の方法] 試験が中心。出席も考慮する。		[参考文献] 授業中にその都度指示する。		
[教科書] 『英語史入門』 H. Koziol (小野 茂 訳) 南雲堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語音声学		春学期集中	4 単位	南 條 健 助
[講義概要・学習目標] この授業では、実践音声学 (practical phonetics) を重視する英国学派音声学 (British School of Phonetics) の伝統に従い、標準的なアメリカ英語の音声、主として調音 (articulation) の面から科学的に研究する。 実践音声学とは、自分の耳で聞いた聴覚印象や、自分で発音した際の音声器官 (vocal organs) の状態および筋肉運動を知覚するといった自己観察に基づいて、音声を記述・分析する音声学の研究手法の一つである。したがって、この授業では、まず第一に、英語の音声を正確に聞き取るとともに、聞き取った音声を、個々の母音・子音ばかりでなく、そのつながり方や強勢・リズム・音調にいたるまで、忠実に再現し、発音した際に、自分の舌や唇あるいは喉などが、どのような動きをしているかを感じ取ることができる能力を身に付けてもらう。授業では、そのための音声学訓練 (phonetic training) に、かなりの時間を割くことになる。また、そのような訓練と並行して、毎週少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強していく。 なお、テキストは用いるが、必ずしもテキストどおりに授業を進めるわけではなく、口述による講義が中心となるので、受講生諸君は話を聞きながら、各自でノートを取ることが求められる。		[講義計画] 1. 入門編 2. 強勢とリズム 3. 音調 4. 母音 5. 子音 6. 音のつながり 7. 発展編		
[成績評価の方法] 定期試験 (60%)、提出課題 (30%)、出席状況や授業態度 (10%) を総合して評価する。なお、8回以上欠席した者には、定期試験の成績や提出課題の評価にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする受講生は即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。		[参考文献] 授業中に紹介する。		
[教科書] 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語パブリック・スピーキング		秋学期集中	4単位	萬 戸 克 憲
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>問題点に対し①論理的な思考をし、②説得したり、③その場で反駁したりなどが、英語のできる技能を身につける。 準備、発表など毎時間積極的な取り組みが必要。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。 この講義を通じて、英語で自由に自分の意見を述べたり、相手に反論できるようになることを期待している。</p> <p>なお、プリント2枚を配付する（配付の方法については7月はじめに掲示する）のでそれを見て、次の課題について最初の時間に essay (B5版で3～5枚)を書いて提出することで受講を認める。 I. debate は discussion とはどのように違うか II. debate を通じてどのような力を身につけることができるか III. この授業にたいする私の期待</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 秋期の授業であるが、これを通じて、毎時2分間の英語でのスピーチを課す。 2. 最初の2週間はdebateについて基本から学習し、さまざまな問題について自分なりの意見が英語で表現できるようにする。 3. 後半の3週間はdebate（真剣勝負）を中心に授業を進める。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への参加度 および speech 3回以上の欠席は単位を認めない</p>	<p>[参考文献]</p> <p>Y. Matsumura, et al. , <i>Enjoy Debating</i>. EICHOSHA D.W. Klopff, et al. , <i>The Bases of Debate</i>. Sanshusha</p>			
<p>[教科書]</p> <p>T. Nishimoto, B. Porter, <i>Both Sides Now</i>. Seibido</p>				

英
米
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語ディスカッション		春学期集中	4単位	ラウール セルバンテス Raou l Cervantes
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>Goals: The goals of the class are the following: 1) To engage in intelligent discussion 2) To develop English fluency 3) To develop critical thinking skills</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Content: This class will discuss films to be viewed in class. The discussions will cover social aspects, psychological aspects, and philosophical questions. We will not talk about cultural differences. Each week there will be writing assignments. Students must attend class (only 5 keiseki allowed). Students must also do homework. This class is for advanced speakers of English. No Japanese can be spoken in the class. People who cannot freely discuss in English will not pass the class. This class is difficult, and you must work very hard.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Evaluation: Students will be evaluated on their weekly homework and their class participation.</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>No Text</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語翻訳法		通 期	4 単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>翻訳は英文和訳とは違う。どういう風に違うかということ、翻訳はまず日本語でなければならない。英文和訳は、英語の勉強の必要上、教室内でつくられた特殊な日本語である。こういうことを、最初に講義する。</p> <p>それからあと、下記の教科書の英文を、毎時間1ページくらい翻訳してきて提出してもらおう。これは毎時間の宿題である。</p> <p>そして、提出された翻訳を訂正し採点して、できれば次の時間に返却したいが、これは参加者が多くなると不可能になるだろう。</p> <p>目標は、翻訳することで、英文が精密に読み込めるようになり、また、日本語もしっかりと書けるようになること。</p> <p>毎時間自分の翻訳を提出しなければならないので、きっちり出席しないと合格できない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まず教科書の英文を中心に翻訳の勉強をする。毎時間翻訳する分は少ないが、おもしろそうで、かなりむつかしい文章を選んである。</p> <p>それ以外にも、ときどき、いろいろなタイプの文の翻訳練習をするために、私が選んできた英文をコピーしてあらかじめ渡し、それを翻訳してもらおう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間提出してもらった翻訳を採点し、その総合で評価する。期末試験はとくにおこなわない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私じしんの翻訳についての著書や論文があるが、それは随時授業の中で紹介していく予定である。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>David Peaty: Issues of Global Concern 『地球的問題群の背景を考える』 2002年 金星堂 (生協で販売)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語通訳法		春学期集中	4 単位	遠 山 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>正直に言えば、通訳者になるのであれば、TOEFL に換算して 600点ぐらいはないと、他人のための通訳などとても望めない。通訳をするということは、他人の言語生活を、文化を超えて共有するということである。適性の問題もある。日本語力、英語力、専門知識、教養、異文化・国際行動の常識、通曉性の高い発音、これらすべてが学習目標となるし、加えて通訳技法の習得である。このコースは英語学習のコースではなく、通訳法の入門コースである。</p> <p>技術的に少人数クラスでないとクラス運営ができない。最初の授業において実力適性試験を行う。LL教室を使用。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：「通訳法」と「通訳者」 2. アド・ホック通訳（日英）と逐次通訳（英日） 3. 逐次通訳法とメモ取り訓練（英日・日英） 4. 簡単な同時通訳法訓練（英日） 5. 逐次通訳法を中心とする訓練 6. 模擬訓練と実力試験、などを随時行う。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末に行う実力試験（performance）で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。学生は、メモ取り用の雑記帳と空テープを、毎回用意すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と反逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。	[講義計画] 1 序論 講義開始に当たって 2 Easter 復活祭とは何か。聖占と復活。 3 E.E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 4,5 Andrew Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 6 Emily Dickinson "How happy is the little Stone" Marvellの語り手の悩みへの答 The Beatles "Let It Be" Marvellの語り手の悩みへの答 7 William Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命 8 John Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰 9 John Milton "On the Late Massacre in Piedmont" 死と再生 10 Robert Frost "Stopping by Woods on a Snowy Evening" 現実と超現実の接点 11 George Herbert "Love" 罪を赦すキリスト/聖餐式の意味 Litany 聖餐式での連祷 12-21 William Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨/終末論 22 後期講義総括			
[成績評価の方法] クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。期末試験またはレポート。	[参考文献]			
[教科書] "That Evening Sun"は William Faulkner著A Rose for Emily and Other Stories(英宝社)に入っているものを使用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
[講義概要・学習目標] 文学とは何かという問いに対してひとつの解答を出すために、作品をこまかく、正確に、かつ想像力豊かに読む方法を講義する。文学とは言語による表現に依存しながらも言語では表現できないものを伝えようとするものである。この決定的な逆説のなかで読む行為をしなければならない読者には、必然的に読む技術が求められる。すぐれた文学作品とは個々の真理を表現するために最良の方法を選択したものだとすれば、表現されていないものを求めて言語表現を詳細に検討することが真理探究への道である。作者の選んだ言語表現を前にして、沈黙の言葉を読み取る方法を伝える。 この授業の目的は、文学作品をどのように読むべきか、その方法を各自で見つけることである。	[講義計画] 第1回目の授業で詳しいシラバス等を配布します。			
[成績評価の方法] 出席とレポートによる。	[参考文献]			
[教科書] 第1回目の授業で指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		秋学期集中	4 単位	赤 瀬 雅 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。</p> <p>この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。</p> <p>このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。</p> <p>基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。なお学会の先端で行われている影響研究と対比研究を併用した方法にも無理のない範囲で触れてゆきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の童話と童謡		秋学期集中	4 単位	藤 森 か よ こ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(1) 英米民間伝承童謡を味わう： 英米文化を理解するために、必ず知っておかねばならないのが、「聖書」と、シェークスピアの演劇と「マザー・グース」と呼ばれる英国に古くから伝わる民間童謡である。「童謡」といっても、自然発生的にできたものが多いので、子供向きでも教育的でもない。現代の文脈から見れば、残酷でもあるし、猥褻でもあるし、差別的な内容のものも多く含まれている。全く意味がわからないナンセンス・ソングもある。だからこそ、注意深く考察すると、歴史の中でせいいっぱい生きてきた庶民の、むきだしの姿が、生活が見える。現代の映画や、ポップソングや、コマーシャルや新聞の見出しなどに、また文学作品などに、いかにマザー・グースが、使われているかを知ること、楽しい。</p> <p>(2) ディズニー・アニメーションの政治性を分析する： 20世紀後半に生まれ育った人間にとって、童話とはディズニー・アニメでしかない。アメリカの貧しい一青年が作った、このお子さま向け大衆娯楽メディアは、世界を席巻してきた。このメディアは、アメリカ中心主義の強化・伝搬装置でもあった。ジェンダーの問題を中心に、ディズニー・アニメの政治性を考える。日本のアニメも比較対象のために、大いに言及し論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第一回目：なぜ童話と童謡か？その歴史性について確認。 第二回目から 第十九回目まで：マザー・グースから七十編の歌を、指定テキストと、ビデオを使用しつつ、学び分析する。同時に、英語の韻の種類や、基本的な英語の韻文の形式を楽しみながら学ぶ。 第二十回目：中間試験</p> <p>第二一回目：ディズニー・アニメーションの歴史：1926年から現在までの変遷と、その思想 第二二回目：ディズニー・アニメーションの危険性 第二三回目：日本アニメとディズニー・アニメーション 第二四回目：日本アニメは世界を日本化するか？ 第二五回目：英米の児童文学から日本が学べること 第二六回目：まとめと試験</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験と学期末試験と、毎回提出するコメント・ペーパーと出席率から判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>北原白秋訳『まざあ・ぐうず』（角川文庫・1976） 谷川俊太郎訳『マザー・グース』全4巻（講談社文庫・1981） 平野敬一著『マザー・グースの唄』（中公新書・1972） 渡辺茂編・著『マザー・グース事典』（北星堂・1986） 藤野紀男著『英文学の中のマザー・グース』（荒竹出版・1986） 藤野紀男著『マザー・グース案内』（大修館書店・1987） 鷺津名都江『わらべうたとナーサリーライム』（晩せい社・1992） 川端康雄『オーウエルのマザー・グース』（平凡社・1998） Iona and Peter Opie, ed., The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford Univ. Press, 1997)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>安藤幸江注：『Nursery Rhymesとビデオで楽しむマザー・グース』 あと、適宜教材プリントを配布する。</p> <p>受講者には、七十編の唄が録音されたテープが配布される。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ギリシア語		秋学期集中	4 単位	山 川 偉 也
【講義概要・学習目標】 西洋文化を興行をもたものとして理解しようと思うならば、ギリシア文化を学んだほうがよい。そして、ギリシア文化を少しでも身につけたものとするためには、ギリシア語を学んだほうがよい。言葉は文化の核心であり、そして西洋文化はギリシア文化を原流としているからである。 なるべく楽しい授業にしたいと考えている。	【講義計画】 ギリシア語学習は積み重ねが重要である。毎回必ず出席し練習を続けることがいちばん大事である。そして、古典ギリシア語だけでなく、たまには現代ギリシア語も勉強することしよう。			
【成績評価の方法】 言語の学習は、演習という性格をもつ。授業中の訓練とその評価は直結する。したがって、練習問題を解いていく能力が試される。試験はその再確認という意味をもつだろう。	【参考文献】			
【教科書】 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ラテン語		秋学期集中	4 単位	ゴソザレス ダリオ GonzalesDario
【講義概要・学習目標】 【学習目標】 ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。 【講義概要】 ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、二千年余りの歳月により今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙が、ラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる 講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知ることによりラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語にできるだけ親しんでもらう為に、視聴覚教材を活用するつもりである。 授業には、ラテン語の小辞典を携帯する。	【講義計画】 〈前期〉 1. ラテン語の起源と歴史 2. 発音と読み方 3. 基礎的な文法事項 〈後期〉 1. ラテン語からの派生語 スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等 2. 身近かなラテン語 音楽と雑誌 3. 簡単な日常会話			
【成績評価の方法】 小テスト、出席日数、レポートの総合評価	【参考文献】 松本悦治 (著)「ラテン語入門」(駿河台出版社)			
【教科書】 プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マスコミの英語		通 期	4 単位	大 橋 襄
[講義概要・学習目標] マスコミの英語は、世の中の激しい動きを即座に伝えていくものだけに、生き生きと躍動しています。独特な言い回しや表現を用い、時には文法や構文のルールを逸脱します。この授業では最新の英語の新聞、雑誌、放送などを教材に用い、ホットなニュースを読んだり、聞いたりしつつ、興味をもって学習できるようにします。もちろん基本的なことも、教科書などを通じ学んでいきます。しかし忘れてならないことは、英語の知識と同時に、ニュースで扱われている問題の本質や背景などの知識、そして豊富なボキャブラリー（英語とともに日本語も）を身に付けることです。そして「マスコミの英語」に数多く接していけば、英語の新聞、雑誌などへの拒絶感が次第に薄れ、親しみを感じるようになるでしょう。それが、この授業の目的です。	[講義計画] (前期) 日本や海外の英字新聞、雑誌、放送、通信などの概説からはじめ、その内容（ニュース、論説、解説など）、記事の構成を学び、またそれらに用いられている特有の語法、文体、表現などを、“生の”教材に触れながら授業を進めていきます。さらに、問題の理解を助け、深めるため、時事的な知識も同時に学びます。 (後期) 前期と同様、随時、最新の新聞、放送などを教材としつつ、授業を続けていきます。			
[成績評価の方法] 学年末の試験を最終評価とします。また、授業時におけるテストやレポートのほか、出席状況や学習態度なども評価に加えます。	[参考文献]			
[教科書] 新聞などを教材にしますので、特定の教科書は使いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（日本文化）		春学期集中	4 単位	梅 山 秀 幸
[講義概要・学習目標] 大阪人に阿諛する気持はさらさらないけれど、東京で着飾って歌舞伎座に出かける山の手のマダムたちよりも、黒門市場で買い物をしているオバチャンの方が数段、教養において上だと思ったことがある。近くに文楽劇場があって、そこで演じている『菅原伝授手習鑑』や『義経千本桜』や『妹背山婦女庭訓』などに精通しているからである。英語に強い桃山学院に学ぶのなら、当然シエイクスピアは読んで欲しいけれど、せっかく御当地大阪の大学なのだから、浄瑠璃の教養を黒門市場のオバチャン並みには身につけて欲しいものだ。ところで、上記三作の山場とされ、今もって人気の高い寺子屋の段、すし屋の段、山の段、すべてが子ども殺しをテーマとしている。江戸時代の庶民たちはこの他残酷だったのだろうか。あるいは、子ども殺しには別の意味合いがあったのだろうか。その文化史における意味について考えてみたい。		[講義計画] 1、説経浄瑠璃の世界 『小栗判官』・『俊徳丸』・『山椒大夫』 2、『葛の葉』と信太の森 3、近松門左衛門の世界 心中、そして妻敵打ち 4、『伊賀越道中双六』と和辻哲郎 5、『妹背山婦女庭訓』の世界 6、『菅原伝授手習鑑』と柳田国男の人身御供論 7、『一谷双葉軍記』と『敦盛』 8、フレイザー、フロイド、マルセル・モース 9、コメディイ・フランセーズ（パリ）の演劇 10、ピッコロ・テアトロ（ミラノ）の演劇 （もし、機会があれば、国立文楽劇場で浄瑠璃を鑑賞したい。諸君の懐が許せば、歌舞伎にも行きたいが……）		
[成績評価の方法] レポートによる。		[参考文献] 『近松浄瑠璃集 上・下』 『浄瑠璃集 上・下』 『歌舞伎脚本集 上・下』 『文楽浄瑠璃集』 （以上、岩波日本古典文学大系）		
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（韓国・朝鮮文化）		通 期	4 単位	チョン 田 ソン 星 ヒ 姫
[講義概要・学習目標] 現代の韓国・朝鮮人の精神・生活の基本をなしている事柄を取り上げ、その歴史的背景を理解するとともに、韓国・朝鮮の歴史や地理に関する基本的な知識を習得する。韓国・朝鮮の伝統的な文化や生活スタイルと思われる多くは、16世紀以降にはじめて形成されたものであり、それが社会全体に普及していくのは18世紀以降のことである。授業では主に朝鮮時代以降を扱うが、現代韓国の社会や生活もあわせて紹介したい。視聴覚教材を使用。		[講義計画] 1 朝鮮という名称について 2 朝鮮半島領域の変遷（現代の行政区画） 3 地理・社会的環境（各地域の生活） 4 韓国の祝祭日と年中行事 5 生活文化（衣食住）日朝交流 6 ハングルと世宗時代 7 伽耶と「歴史教科書」問題 8 近世日朝関係と朝鮮通信使 9 伝統芸能 10 朝鮮後期のルネサンスと実学 11 儒教と名字の話等々		
[成績評価の方法] 期末レポート（授業中に時々小レポート提出）		[参考文献] 『朝鮮を知る事典』伊藤亜人他編（平凡社） 『韓国・朝鮮を知るための55章』井上秀雄・鄭早苗（明石書店） 『入門韓国の歴史』石渡延男訳（明石書店） 『韓国小学校歴史地図帳』		
[教科書] 特になし。授業中、適宜プリント配付				

国
際
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究 (中国文化)		秋学期集中	4 単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国とはどのような世界か？ 古くて新しいこの問題を考える際に是非知っておきたい前提を学ぶ。現在中国には56種もの民族集団がいるといわれる。そのような状況からほど遠い国のありかたをしている日本のわたしたちが、なかなか実感をもてない状況である。21世紀は「中国の時代」とよく言われるが、そのことを考えるときは是非な前提要件について話題を提供し、「世界市民」としての視野を得られるように考察を進めて行きたい。出来るだけ多くのトピックをあげて、考察してみよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の方針と講義全体の構想の説明 2. 中国は遅れているか？ 3. 世界史における中国の存在 4. 2つの中国 5. 中華帝国の皇帝とは 6. 中国的君主独裁 7. 伝統中国の病理諸相 8. 中国の二大階層一士と庶一 9. 騎馬遊牧民の持った文字 10. 現代中国の課題 11. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認する。この小テストと定期試験によって成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三田村泰助『黄土を拓いた人びと』生活の世界歴史2 河出文庫 河出書房新社 1991。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究 (フランス文化)		秋学期集中	4 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>きょう現在のフランス人のライフスタイルや思考傾向などについて色々なアスペクトを通じ説明いたします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、平常点と期末試験で評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（ロシア文化）		秋学期集中	4 単位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ユーラシア大陸の北方に偏ってヨーロッパからアジアに広がるロシアは、感覚的には中国とEU諸国との間に孤立してイメージされている。我々は、古来中国との縁が深いし、近来は欧米との交渉密である。ロシアは、その間に落ち込むようにして、また「崩壊後」の「混乱」もあって、判り難さを増大させている。</p> <p>本講は、このようなイメージ（偏見）を検証しつつ、本来あるがままの或いはあるべきロシアとその文化を把握することを目標とする。ロシアとその文化は、ヨーロッパ及びアジアとの絶えざる接触・交流の中で自らを形成した。その過程を、歴史・文学・宗教・美術・音楽・演劇等の諸相にわたって順次考察する。</p> <p>逆説的ではあるが、ロシア文化の独自性は異文化の受容に発するのであり、また、独自性の獲得によって初めて、国際的普遍性への道が開かれる。各種視聴覚教材も活用し、出来るだけ具体的にロシアにアプローチする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. ロシアのイメージ：アジアとヨーロッパの狭間で II. ロシアの歴史：規範と逸脱をめぐって III. 日露交渉史概説：「領土問題」の淵源 IV. ロシアの文学：独自性と世界的普遍性 V. ロシアの宗教：ロシア正教 vs. ローマ・カトリック VI. ロシアの美術・音楽：民族芸術とのかかわり VII. ロシアの映画：映画先進国としてのロシア VIII. ロシアの舞台芸術：ロシアのヨーロッパ制覇</p> <p>* 各項目につき、2～3講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得る。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>秋学期末のレポートにより評価します。力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に、随時指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		秋学期集中	4 単位	遠 山 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。</p> <p>情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型 5. 言語と文化：エティックとイーミック 6. 非言語コミュニケーション 7. コミュニケーション能力と言語能力 8. コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ 11. 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993</p>			
<p>[教科書]</p> <p>遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998</p>	<p>古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987</p> <p>祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992</p> <p>遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文明論		春学期集中	4 単位	片 倉 穰
〔講義概要・学習目標〕 <p>この講義では、最近の歴史学・文化人類学などの諸成果や、比較文明学の方法論をとり入れ、世界史上に存在した、かつまた、現に存在している諸文明の性格と特徴を明らかにするとともに、諸文明の交流・摩擦・衝突の問題を具体的に考察する。いわゆる四大文明の文明論の立場をとらず、アフリカや中南米などに存在した諸文明についてもその特質を解明し、比較研究の対象とする。</p> <p>また本年度は、人びとの人生・日常生活に深くかかわる具体的な諸々の問題もとり上げ、身近なところから文明を考える方法を採用する。</p> <p>日本は、比較文明論という学問にとって好都合な資料を提供してくれる場であるので、その利点をいかし、日本にかかわる資料を多用する。</p> <p>なお、研究の進展または資料・情報の入手により、講義計画の一部を変更することがある。</p>	〔講義計画〕 <p>はじめに——本講義の目的その他</p> <p>1部：日本人の文明観</p> <p>(1) 前近代日本人の文明観</p> <p>(2) 近・現代日本人の文明観</p> <p>2部：諸文明の基礎的考察</p> <p>(1) 東洋と西洋</p> <p>(2) キリスト教とイスラム教</p> <p>(3) 儒教と仏教</p> <p>3部：文明の交流・摩擦・受容・変容</p> <p>(1) 世界史のなかの狩猟・遊牧文明</p> <p>(2) アフリカ文明を考える</p> <p>(3) 文明の交流とことばの問題</p> <p>(4) 巡礼の比較文化論的考察</p> <p>(5) 東アジアの西洋文明受容</p> <p>4部：儀礼の比較文明論</p> <p>(1) 葬儀と文明</p> <p>(2) 文明のなかのいけにえ</p> <p>5部：日常生活の比較文明論的考察</p> <p>(1) 食物の比較文明論</p> <p>(2) 文明社会とベトナム</p> <p>(3) 文明のなかのこども</p> <p>(4) 文明と疾病・老い・死</p> <p>(5) 浴場と文明</p> <p>6部：比較文明論の予備的研究</p> <p>(1) 人口増と文明社会の未来</p> <p>おわりに——まとめ</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>出席状況・期末試験あるいはレポートにより評価する。</p>	〔参考文献〕 <p>川勝平太 『日本文明と近代西洋』<NHK ブックス>日本放送出版協会、1991</p> <p>伊東俊太郎 『比較文明学を学ぶ人のために』世界思想社、1997</p> <p>比較文明学会編 『比較文明』(年報)1～17、刀水書房、1985～2001</p>			
〔教科書〕 <p>使用しない。プリントを配布して授業をすすめる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学		春学期集中	4 単位	野 尻 亘
〔講義概要・学習目標〕 <p>地理学は具体的な「地域」・中層的な「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。</p> <p>地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。</p> <p>従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。ただし、この授業は教職(教科に関する専門科目)でもあることから、一般的かつ包括的な授業内容とする。なお学校教材として扱う具体的事例については、別に「地誌」の授業で取り上げる。</p> <p>同時に社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。</p>	〔講義計画〕 <p>1. 探検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い</p> <p>2. 生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター ラッツェル・ブラーシュ</p> <p>3. コロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフェン・ マルテ・ハーツホーン</p> <p>4. 地理学における例外主義批判と計量革命</p> <p>5. 「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティ モデル</p> <p>6. 行動地理学とタイムジオグラフィ</p> <p>7. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて</p> <p>8. マルクス構造主義と都市研究</p> <p>9. 立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益</p> <p>10. 立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件</p> <p>11. クリスタラーの中心地研究</p> <p>12. 現代における地理学の課題</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>定期試験(持ち込み不可)。得点が上位から席次351位以下の履修者には単位を与えない。問題は客観テストと論述問題とする。</p>	〔参考文献〕 <p>西川 治 『人文地理学入門』東大出版会</p>			
〔教科書〕 <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		秋学期集中	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] 応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらおうことが、学習目標となる。	[講義計画] 1. 応用言語学とは何か ― 課題と方法 2. 言語問題の学 ― 言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳 3. 異言語教育学 ― 教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価 4. 学際的言語学 ― 神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など 5. 「ことばの職業」研究 ― 日本語教師、言語聴覚士、通訳			
[成績評価の方法] 期末試験による。	[参考文献] 白畑知彦ほか著、『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999。 ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』大修館書店、1999。			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較芸術学		秋学期集中	4 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標] すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫塑の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。	[講義計画] 1. 比較芸術学の課題と研究領域 2. エジプトの彫刻 3. ギリシアの彫刻 4. ローマの彫刻 5. 仏像に関する諸問題 6. 彫刻の素材			
[成績評価の方法] 出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。	[参考文献] 『近代芸術学の成立と課題』 吉岡健二郎著、創文社 『芸術の世界』 井島 勉編、創文社 『原色 日本の美術』 小学館 『中国美術全集・彫塑編』 人民美術出版社			
[教科書]				

国
際
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講 (社会言語学)		通期	4単位	大原 始子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々に姿を変え、日々変化している。また、話し手は、文化や社会の慣習によって、「場面」や「相手」にふさわしい「ことば」を使い分ける。このように、言語の変種を、誰が、どこで、何を、どのように話すかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。</p> <p>本講義では、前期は、多様な言語社会とそこに見られる言語現象を中心に進める。後期は、言語の多様性と語用論的研究を紹介しながら進めていく。専門的な内容に入るため、言語学、英語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> 言語と方言 国語、公用語、共通語、標準語 バイリンガルとダイグロシヤ ピジンとクレオール 言語とアイデンティティ 言語計画 (アメリカ、オーストラリア、アジア、アフリカ)</p> <p><後期> 変種の地域差、世代差、男女差、階層差 日本語アクセントの平板化 ら抜き言葉 ポライトネス理論と敬意表現 協調の原理 借用語 会話分析</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期終了時に、論述試験を行う。講義中に出すレポートの成績も評価に加える。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>その都度、プリントして配布、または指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>『社会言語学への招待』 (ミネルヴァ書房)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講 「男」と「女」東西史比較		秋学期集中	4単位	フィリップ・ビルリグズリー Philip Billingsley
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ジェンダー：避けて通れない事実の一つだ。「男」か「女」か、どちらかになる。「男らしい女」でも、「女らしい男」でも、「男」が「女」に変わり、「女」が「男」に変わる、最終的には「男」か「女」(場合によっては両方?)。「当たり前」中の「当たり前」だけれど、多くの場合にはその「当たり前」が現実を隠してしまう。いつもと変わりなく「歴史に隠された人々」を取り上げるが、今回の講義は日本・中国・西欧の歴史に登場する(深く探れば)「男と女」、「男と『男』」、などを見つめていきたい。中国古典文学の男・女、中世キリスト教が容認した「同性愛者の結婚式」、小泉屋敷の出したパズルなどなどみていくうちに受講生の「男と女」に対する固定概念を揺るがすのが目的だ。</p> <p>但し、ネックがある。それは、この講義は英語で行うこと。多くの受講生にとっては初めての体験となる。「難しい!無理!」と思うかもしれないけれど、諦めてページをめくる前に、もう少し付き合ってください。</p> <p>当然、通じない講義をやっても仕方がない。だから、どの受講生も聞き取れるようにありとあらゆる工夫をする。(もちろん、受講生がその気になればの話だけれど。)安心して受講してみてください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>未定。というか、話しの流れに任せます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>ヒアリング能力を磨くために毎回出席することが大前提。そのほかには提出物を要求し、期末テストも行う。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>キーワードやイラストを含めたプリントを随時配布する</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講（世界の文化：思いつくまま）		春学期集中	4 単位	フィリップ Philip Billingsley ビリングズリー
【講義概要・学習目標】 この2-3年間はよく旅に出る。そして、旅先の国々で必ず現地の文化に関わる話しを求める。最近訪れた国の中にはエジプト、ケニア、韓国、ニュージーランド、そして専門領域の中国も含まれている。講義を通して、それぞれの国の「土産話」から学べることに一緒に考えていきたい。 違う文化を見つめることによって、自分の文化が見えてくるし、それによって「常識」が揺れ動く。これは人間にとってもっとも大事なことで、自分自身をリフレッシュしていくための大前提とも言える。もちろん、未知の文化について学ぶことの楽しさも忘れてはいけない。「目からうろこが落ちる」ような話しによって受講生たちの関心を刺激すると同時に、「楽しい体験」をさせるのが講義の目的だ。 但し、ネックがある。それは、この講義は英語で行うこと。多くの受講生にとっては初めての経験となる。「難しい！無理！」と思うかもしれないけれど、諦めてページをめくる前に、もう少し付き合ってください。 当然、通じない講義をやっても仕方がない。だから、どの受講生も聞き取れるようにありとあらゆる工夫をする。（もちろん、受講生がその気になればの話しだけれど。）安心して受講してみてください。	【講義計画】 未定。というか、話しの流れに任せます。考えられるのは現代イスラムと儒教それぞれの社会に共通する話題、日本にやってきた欧米人が沈黙するときの話し、などなど。しかし、今のところは未定であることを強調する。			
【成績評価の方法】 ヒアリング能力を磨くために毎回出席することが大前提。そのほかには提出物を要求し、期末テストも行う。	【参考文献】 キーワードやイラストを含めたプリントを随時配布する			
【教科書】 ナシ				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		春学期集中	4 単位	原山 煌
【講義概要・学習目標】 中国を中核とする東アジア世界を考える際に、忘れてはならない視点として、「中華思想」という概念がある。中国から見た自他の弁別、それが「中華思想」である。中国では古来周辺諸民族をどのように認識していたのか、また、逆に周辺から見た中国とはどのようなイメージだったのか、というような問題は、東アジアの歴史を大きく規定してきたし、実は今日に至るまで尾を引いているテーマでもある。これからの東アジア世界を理解する能力を養うためにも避けて通れないこの問題を多角的に考えてみよう。	【講義計画】 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 中国世界とはなにか 3. 周辺諸地域の状況－北狄とは－ 4. 中華思想の起源と定着 5. 東アジアにおける華夷の対立－その史実－ 6. 北狄から見た中国 7. 現代における「中華思想」とは			
【成績評価の方法】 授業への理解度と出席状況を確認するための小テスト、年数回のレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。	【参考文献】 授業中に随時紹介する。			
【教科書】 松田寿男『アジアの歴史－東西交渉からみた前近代の世界像－』岩波書店1992。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
[講義概要・学習目標] 日本思想史を構成する三つの柱は神道・仏教・儒教である。原典にもとづいてこの三思想を中心に追究し、日本思想史の特質に迫る。	[講義計画] (1) 神道(『古事記』など) (2) 仏教(『浄土三部経』など) (3) 儒教(『太極図解』『中庸章句』『大学章句』など) (4) 陰陽道(『大衆雑書』など) (5) キリスト教(『どちり存・きりしたん』など)			
[成績評価の方法] 期末試験(講義に全部出席して内容の理解に努めれば単位取得は容易。欠席が多かったり注意散漫であれば、単位取得はきわめて困難である。)	[参考文献]			
[教科書] 資料を配布する。ただし配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席していた人に対する追加配布や、持参するのを忘れた人への再配布は行わない。毎時、資料を持参しなければ、講義の理解は困難である。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		春学期集中	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] 庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたあと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。	[講義計画] 1. 民俗学とは何か — 民俗学の課題と方法 2. 人生儀礼 — 誕生から葬送まで 3. 年中儀礼 — 盆と正月 4. 俗信 — 予兆・卜占・禁忌・呪術 5. 昔話 — タイプと研究方法			
[成績評価の方法] 期末試験による。	[参考文献] 稲田浩二・稲田和子編、『日本昔話百選』、講談社文庫。 新谷尚起編、『民俗学がわかる事典』、日本実業出版社。			
[教科書] 稲田浩二・稲田和子編、『日本昔話ハンドブック』、三省堂。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		秋学期集中	4単位	岩 津 洋 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日のヨーロッパはEU（欧集連合）として統合されつつあります。国民国家の時代に形成された（イタリア人とかフランス人とかの）各国民意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増大しています。他方では、それぞれの民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せています。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパとヨーロッパの人々の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とするものです。</p> <p>したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではありません。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり意識されることのすくない側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察します。EUのおこなった最新の意識調査などもデータとして利用されるでしょう。</p> <p>近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えています。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す予定です。</p> <p>I. 西洋文化史の課題と射程 II. 西洋文化の伝統と近代 III. 西洋の統一性と多様性 IV. 西洋の自己規定</p> <p>週2回の授業時間というセメスター制の特徴を生かして、受講生との応答を積極的にとりいれ、講義内容の理解を深めたいと計画しています。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かのレポートと学年末の試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		春学期集中	4単位	山 川 偉 也
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は西洋思想の流れを、主として「時間」の観念に焦点を合わせながら概観してみようとするものです。「時間」は、私達にとって最も身近なものであると言ってもよいでしょう。しかし、「時間」とはいったい何なのでしょう。ひとたび、この問いが立てられるや、一挙に「時間」は謎めいたものとなって立ち現れてまいります。そしてそれと同時に、つねに「時間」を意識して生きているわたしたち自身、わたしたちの「自我」とはいったい何者であるかという問いが生じてまいります。実のところ、「時間」は、哲学思想の最も深遠な対象なのです。本講義は、「時間」への問いを通じて、西洋思想の骨格を浮き彫りにしようとしています。その際、ギリシア思想が大きなポイントを占めることになるでしょう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義は「時間とは何か」という問いによって始まります。その際、大森荘蔵という人（科学哲学者）の逆説的な時間論が紹介されますが、これについて一緒に考えていただくこととなります。そして、「時間を意識する」とはどのようなことかという論題がとりあげられます。この問題をめぐって20世紀最大の哲学者だった二人の人物ハイデッガーとウイットゲンシュタインの「時間」についての考えが検討され、次第に西洋思想の森の奥深く分け入ってゆくこととなります。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の授業の最後に必ず小テストの時間を設け、学生諸君の理解の度合いを試すことにします。成績評価は、その毎回の小テストの評価と学期末の試験の評価を総合して行われることとなります。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		春学期集中	4 単位	伊 藤 高 章
〔講義概要・学習目標〕 プロテスタント宗教改革に対抗するカトリック教会の「反宗教改革」運動の中に成立した、イエズス会およびイエズス会士フランシスコ・ザビエルの活動を手がかりに、近世キリスト教史を中心に、広く学ぶ。また、これらの具体的な動きの背後にある、キリスト教の理念および各時代の思想史にも関心を持つ。同時に、西ヨーロッパ国際関係、帝国主義政策などの社会経済の状況への理解をも深める。 教会の側から見た教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きを理解する、という立場に立つ。 前半は担当教員による講義、後半は、受講者各自のリサーチペーパーに基づく研究発表。	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 1: 数回の、ブックレポートおよびビデオ鑑賞レポート 2: 5月中旬提出のリサーチペーパー(8000字程度) 3: 研究発表	〔参考文献〕			
〔教科書〕 『新共同訳 聖書』日本聖書協会 『キリスト教資料集—キリスト教史、新共同訳聖書』聖公会出版 遠藤周作『沈黙』新潮文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		秋学期集中	4 単位	有川康二
〔講義概要・学習目標〕 次の会話は何となく変だ。(AがBに地図で道を訊ねる状況を想定する。) A: 桂離宮はどこですか。 B: いいえ、ここが修学院離宮です。桂離宮がここです。 頭の中で何がどのように混乱しているのか? 「会社で働く」と言うのに、「会社で勤める」と言わないのは何故か? 「変な飛行機が上空を飛んでいる」と「変な飛行機が上空で飛んでいる」の違いは? 学校の中庭に象がいるのを見て「うわ、こんな所に象がいる」とは言っても「うわ、こんな所に象はいる」とは言わない。「日本では普通、象は動物園にいます」とは言うが、「日本では普通、象が動物園にいます」とは言わない。(英語でThere is an elephant. であって、There is the elephant.でないこと、The elephant is in the zoo. であって、An elephant is in the zoo. ではないことと同じ原理。) また、「た」は過去形と言うけれども、「あそこにいる帽子をかぶった人」の「た」の時制は現在、「明日一番に来た人にこれをあげます」の「た」の時制は未来。どうなっているのか? 「猫が金魚を食べた」と「金魚が猫に食べられた」は、客観的な事実としては同じなのに、何故二つの使い分けがあるのか? これらの文は頭の中でどのように組み立てられるのか? このような自然言語に関する具体的な問題を探っていく。	〔講義計画〕 日本語のきまりと仕組み 文の構成要素とその種類分け 「こと」の種類(述語の種類とその補語との結びつき) 「主語」「主格」「主題」 述語の活用 テンス・アスペクト 態(ヴォイス一格と動詞の形との相関) 心的態度(ムード)の表現			
〔成績評価の方法〕 出席・筆記試験	〔参考文献〕 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味I』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味II』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味III』(くろしお出版)			
〔教科書〕 寺村秀夫『日本語の文法(上)』(国立国語研究所) 寺村秀夫『日本語の文法(下)』(国立国語研究所)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		春学期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語と語彙 <ol style="list-style-type: none"> 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率 3. 語の種類 4. 語構成と造語法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 意味に関する問題点 7. 語彙教育のポイント 			
【成績評価の方法】 <p>定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	【参考文献】 <p>浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』（国際交流基金／凡人社）</p>			
【教科書】 <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		秋学期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのち」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。</p> <p>外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の表記法と基準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等） 			
【成績評価の方法】 <p>定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>	【参考文献】 <p>富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金／凡人社）</p>			
【教科書】 <p>清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		通期	4単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と、（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか？何故、自分は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>指示表現（こそあど） 形容詞 存在表現 時制（テンス） 保留形（テ形） 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク（窓が開いている・開けてある・窓を開けておく） 授受表現（やる・あげる・もらう） 態（受身・使役・使役受身） 条件表現（雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると） 敬語（お読みになる・お読みする・なさる・いたす）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では、日本語教育において教科書や教材がどのような役目を果たすかを考えるとともに、実際に市販されている教科書を詳しく分析します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて教科書を分析し、その結果を発表します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがってレポート作成、および出席状況（半期13回の授業なので、基本的には全出席を望みます）を総合的に考慮して評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） 市販の日本語教科書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
【講義概要・学習目標】 <p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、<u>原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</u></p>	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。 			
【成績評価の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一カ月一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出席を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。) 	【参考文献】 <ul style="list-style-type: none"> 『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研) 『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社) 『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店) 『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク) 『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社) 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社) 『日本語の地平線』(吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版) 			
【教科書】 <p>教員の用意する配付物を使います。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	01	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
【講義概要・学習目標】 大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、「書く」練習が欠かせない。 この授業は、ごく簡単なドイツ語作文をし、その文を繰り返し口に出して読んでみるという練習しながら、会話を伸ばすことを目標とする。まず行ってもらいたいのは、大きな声でドイツ語を話すということである！ 授業には、配布したプリントの他、独和辞典と、初級の授業のときに使用した文法の教科書（何でもよい）を必ずもってくること。	【講義計画】 1. 初級文法の復習 2. sein と werden 3. 助動詞を使って気持ちを表現する 4. 日常生活のなかの接続法 5. ドイツ語と数字表現			
【成績評価の方法】 前期と後期の最後に試験を行なう。成績（合否）はⅡ b の担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容を工夫するつもりである。	【参考文献】 授業中に指示する。			
【教科書】 教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができたいと思います。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語で習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるようところがけたいと思います。わからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語で習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。	【講義計画】 ドイツ語のポップス（フォークソング、ロックなど）を聞きます。 Nena, Die Prinzen, Jule Neigel, Marius Müller-Westernhagen, Herbert Grönemeyer, Reinhard Mey, Ina Deter, Marlene Dietrich, Udo Lindenberg といった歌手を予定しています。			
【成績評価の方法】 毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし全体の成績評価は、Ⅱ a を担当する教師と相談して総合的に決定します。	【参考文献】 独和辞典とドイツ語Ⅰ a（文法）の教科書を毎回持参してください。			
【教科書】 なし。毎回のテキストは教員が用意します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	02	通 期	2 単位	田 中 秀 穂
【講義概要・学習目標】 <p>初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。文法事項ごとに構成された明快なテキストを使用し、やさしく基本的な短いドイツ語を書き表わせるようになることを目標とする。</p> <p>練習問題には、必要な単語やヒントが添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。</p> <p>文法事項などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切に積極的に参加してほしい。</p>	【講義計画】 <p>【前期】 動詞の現在人称変化、冠詞と名詞の格変化、冠詞類、副文、前置詞、過去人称変化、分離動詞など</p> <p>【後期】 現在完了、未来、話法の助動詞、形容詞、再帰動詞、関係代名詞、受動、zu 不定詞句、比較、接続法など</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。</p> <p>詳細は、I a (初級文法) のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>著 者： 横山 靖 書 名： ドイツ語の作文と文法 [新正書法版] 発行所： 郁文堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ b	02	通 期	2 単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 <p>初級で学んだ文法事項を復習しながら、やさしい文章を読み解く力を養う。</p> <p>ドイツ語の文体は最初とはつきにくいであろうが、非常に論理的な構造になっているので、パズルを解き明かすような気持ちで読んで行くと面白くなってくるはずであり、「外国語学習の楽しさ」を味わってもらいたいと切望する。</p>	【講義計画】 <p>授業内容や進度は、原則としてテキスト通り</p>			
【成績評価の方法】 <p>原則的に、前期と後期の試験によるが、授業中の担当・発表も重視する。</p> <p>成績評価はⅡ a とⅡ b の担当者が相談し、総合的に判断して決められる。</p>	【参考文献】 <p>独和辞典必携</p>			
【教科書】 <i>Kennzeichen. de</i> <p>6 Kapitel über deutsche Kultur. ブラウン・ザイデル他著、 『ドイツ文化にまつわる6章』、 三修社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	03	通 期	2単位	竹 田 和 子
[講義概要・学習目標] <p>このクラスでは初級文法でならった知識を生かし、ドイツ語で表現する力をさらに伸ばすことを目指す。教科書は重要な文法項目を復習しながら、ビデオ教材によって生きたドイツ語を理解し、表現できるように作られている。</p> <p>授業のために和独辞典を買う必要はない。ただし外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要である。予習、復習を欠かさず、授業には積極的に参加してください。</p>	[講義計画] <p>1 動詞 2 名詞・冠詞 3 不規則動詞 4 分離動詞 5 前置詞 6 話法の助動詞 7 形容詞 8 完了形 9 過去形・受動文 10 再帰代名詞 と再帰動詞・zu 不定詞句 11 関係代名詞 12 接続法</p>			
[成績評価の方法] <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>著者：関口一郎 書名：ハロー・ミュンヘン（コンパクト・バージョン） 発行所：白水社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ b	03	通 期	2単位	村 田 佳 隆
[講義概要・学習目標] <p>とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der, des, dem, denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標とする。</p> <p>毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。</p>	[講義計画]			
[成績評価の方法] <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>島途、藤田 『若い世代のためのドイツ語』 東洋出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
【講義概要・学習目標】 すでにフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、まとまった量のやさしい読みものを読みながら、フランス語になじみ、より深い読解力を養うことを目標とする授業です。訳読を中心としたものになりますが、必要に応じて、随時、文法事項のまとめやすでに学んだ基礎事項の復習をおこないます。また、テキストを声に出して読むことで、フランス語の発音やリズムが身に付くでしょう。なお、辞書はかならず持参すること。	【講義計画】 <前期> 34頁まで。 <後期> 35頁から 71頁まで。			
【成績評価の方法】 前期試験と学年末試験によって評価します。尚、出席の悪い人は試験を受ける資格が無くなります。	【参考文献】			
【教科書】 Sempé / Goscinny 著、窪川英水 編 「海辺のプチ・ニコラ」 (芸林書房)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の文法を復習しつつ確実に身につけられ、基本的な会話表現を習得していくことが目標です。 そのために、テキストで様々な場面での適切な表現を学習していくとともに、シナリオも用いて聞き取りを行ったり、さらには仮換の問題なども利用して表現力を養成していく予定です。	【講義計画】 前期・後期を通して口頭練習を行ない、「聞き取り」のためにシナリオなどを活用し、フランス語の運用能力を養っていく。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 『フランス語2(改訂版)』 石野好一 他著 白水社				

初修Ⅱ
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	02	通 期	2単位	オリビエ ビルマン Olivier Birman n
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはず。</p> <p>なお教科書と連動して、フランス語Ⅱaクラス用の文法、作文、読書の練習のプリントを作ります。</p>	<p><前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める 電話をする、情報を求める、会う約束をする 等々</p> <p><後期> 過去の物語、出来事の展開を話す 出来事の原因について説明する 事柄を確かでないこととして伝える、事柄を確かなこととして伝える 等々</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。</p> <p>① 出席 ② 提出物 ③ 試験</p>	<p>『東京ーパリ、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S.Gillet、駿河台出版社、1997年</p> <p>『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995年</p> <p>『コレクション フランス語【3】文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990年</p>			
[教科書]				
<p>『ALPHABETIX』</p> <p>著者： Patrice Leroy, Adriana Rico-Yokoyama</p> <p>発行：日仏出版センター</p> <p>発売元：三修社、2000年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	02	通 期	2単位	セシル モレル Cecile Morel
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
フランス語会話	生きたフランス語を身につける			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、授業参加、試験で決める				
[教科書]				
アルファベティックス 日仏出版センター				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	03	通 期	2単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>Lecture et traduction mot à mot, diction, vérification des points de grammaire importants, vérification des conjugaisons, quiz du professeur et interview des étudiants. Mémorisation du texte.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、平常点と期末試験で評価します。毎回小テストとレポートを行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ロー・ヤマサキ: <u>Choses de la vie</u></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	03	通 期	2単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>lecture et traduction mot à mot, diction, vérification des points de grammaire importants, vérification des conjugaisons, quiz du professeur et interview des étudiants. Mémorisation du texte.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、平常点と期末試験で評価します。毎回小テストとレポートを行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>クラスで説明します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを使用。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a フランス語Ⅱ b	0 4 0 4	通 期 通 期	2 単位 2 単位	エディ バン ドロム Eddy VAN DROM
[講義概要・学習目標] 今年の教科書のフランス語自体は易しいものですから、テキストを難なく理解できるのならNOTESや文法説明に煩わされることなく、練習問題に取り組むことにします。これも簡単であるのならどんどん終えて別のものを用いてフランス語に上達しましょう。一人ひとりの個人的な好みを考えながら別な教科書、新聞やインターネットから文書を選ぶ予定もあります。 これからの1年間、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につけやすいものです。気楽に、愉快地にやってください。	[講義計画] 1. Un chapeau, une montre 2. C'est un bouton 3. Les animaux 4. Le cheval est un animal 5. Tu chantes vraiment bien 6. J'ai un petit chien a la maison 7. Une petite maison de campagne 8. Ma montre 9. Monsieur Lauzat et sa bonne cuisiniere 10. Lucioles 11. Sur le coup de midi 12. C'est le docteur Le jeune qu'on va chercher 13. Monsieur Lauzat se souvient de son enfance 14. Monsieur Lauzat recoit une lettre d'un ami danois 15. Les rivieres et les ponts 16. La sante et la patience 17. Qu'est que c'est que la litterature 18. La voix prime l'ecriture			
[成績評価の方法] 1. 評価方法は前後のレポート-翻訳 (1/3+1/3) 及び出席/平常点(1/3)の総合評価とする 2. 小テストの成績を総合的に評価する				
[教科書] 1. 授業時は仏日辞書を必携のこと (例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001) 2. 18 lectures faciles , Susumu Kudo/Nobuo Takeuchi, HAKUSUISHA, 2001 ISBN4-560-06053-3 C3085	[参考文献]			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	0 1 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ゴンザレス ダリオ GonzalesDario
[講義概要・学習目標] 〔学習目標〕 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。 〔講義概要〕 英語に次いで世界の数多い国々で使用されているスペイン語は近年世界経済の動向・国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進める。 本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面する事柄を考えて学習していく。 学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする語学マスターの鍵は、授業に対する積極的な参加・恥を捨てず人前で話す、根気強く口頭反復練習をする等の各自の努力によることと考える。	[講義計画] 〈前期〉 1. 空港にて 2. タクシー乗り場 3. ホテルのフロント 4. 銀行での両替 5. 聖家族教会 〈後期〉 1. 交通機関 (地下鉄、バス) 2. 試着と買物 3. レストランでの注文 4. 郵便物の発送 5. 薬局、病院にて			
[成績評価の方法] 定期試験と出席状況との総合評価とする。	[参考文献] 東谷穎人 (著)「すぐに役立つ はじめてのスペイン語」(日本放送出版協会) 宮城 昇 (編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社)			
[教科書] 辞書の携帯を必要とする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ b	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	ゴンザレス ダリオ GonzalesDario
【講義概要・学習目標】 (学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばし、コミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。 (講義概要) 本講義では、前年に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和辞典1冊になった小辞典の携帯は必要である。又人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。 国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。	【講義計画】 <前期> スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応(誕生日・クリスマス) <後期> 音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。			
【成績評価の方法】 定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。	【参考文献】 東谷頼人(著)「すぐに役立つ はじめてのスペイン語」(日本放送出版協会) 宮城 昇(編)「スペイン語、ミニ辞典」(白水社) ヘレン・デイヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋泉出版)			
【教科書】 辞書の携帯を必要とする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱ a	03	通 期	2単位	フェリペ カルバホ
スペイン語Ⅱ b	03	通 期	2単位	
【講義概要・学習目標】 (学習目標) スペイン語Ⅰで学んだことを基礎として応用・発展を目指す。 (講義概用) 講義の最初の部分では、すでに習った文法を復習しながら、更に発展してスペイン語の文法の規則や表現を理解させるつもりである。 各学生は、授業にノートと筆記用具を持参すべし。	【講義計画】 スペイン語会話のための知識としてのスペイン語より実際に役立つスペイン語の習得のための表現方法を学ばせる予定である。 本書に謳うように、外国語の習得には、基本的な文法事項の把握とより豊かな表現を可能にする為に、語いを豊富にすることが重要です。目、耳、口、手を充分に使ってスペイン語の学習に努めさせる、スペイン語の「書き取り」も毎回する予定である。			
【成績評価の方法】 試験と授業中の態度・応答・宿題、出席で決める。	【参考文献】 授業で紹介			
【教科書】 VENTANA al mundo hispánico 芸林書房 著者 石崎優子 フェリサ・レイ				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱ a イタリア語Ⅱ b	01 01	通 期 通 期	2単位 2単位	和 栗 珠 里
【講義概要・学習目標】 イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅡでの課題である。実践的な演習形式を多くとりいれて聞く力・話す力の向上をめざすのはⅠと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。	【講義計画】 【前期】 イタリア語の構造のまとめ 1. イタリア語Ⅰの復習と実践練習（再帰動詞まで） 2. さまざまな過去時制（半過去・大過去・遠過去） 3. 命令法 【後期】 表現力と実践運用能力の充実 1. 未来形と条件法 2. 接続法 3. 演習			
【成績評価の方法】 平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。	【参考文献】 授業には、小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。			
【教科書】 秋山余思ほか著『Passo a passo (パッソ・ア・パッソ)』 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱ a	02	通 期	2単位	川 村 ルンディーナ
【講義概要・学習目標】 会話、文法、聞き取り	【講義計画】			
【成績評価の方法】 出席、学期末試験	【参考文献】			
【教科書】 プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	02 03	通 期 通 期	2単位 2単位	米 山 喜 晟
[講義概要・学習目標] 一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げるのがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、授業を進めたい。		[講義計画] 前半で教科書の12課までを終える。一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の20課まで進み、イタリア語文法を完了する。		
[成績評価の方法] 2回の試験の成績の平均に基づいて評価する。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。		[参考文献] 坂本鉄男著『現代イタリア文法』（白水社）		
[教科書] 秋山余思著『イタリア語初級テキスト』（イタリア書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	03	通 期	2単位	鳥 居 正 雄
[講義概要・学習目標] Iで扱いきれなかった文法の残りを最後までやります。基本的な動詞の変化が十分に頭に入っていない諸君がかなりいるようなので、動詞の変化を中心に練習問題を使った演習をみっちりやります。会話も基本的には作文なので文章がひとつおりの作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席することが必要です。それで、出席したりしなかったりが目に余るような諸君には、こちらから出席辞退を要求することがあります。また、aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の学生や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い学生には単位を与えるつもりはありません。		[講義計画] 『前期』 文法説明を最後まで行います。 各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。 動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。 カンツォーネ、歌曲やオペラ等を鑑賞し、それらを通してイタリア的な感性に対する理解を養います。 『後期』 文章読解をしながら各法の使い方にたいする理解を深めます。 文章を音読しながら発音とアクセントの正確さを高めます。 映画やビデオを鑑賞し、それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。		
[成績評価の方法] 単元毎の練習問題の提出と期末のテストとレポートの点数、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価します。		[参考文献]		
[教科書] G. Battaglia, G. Varsi: Parole e immagini. Bonacci editore.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 II a		通 期	2 単位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ロシア語 I a・I b」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の文章を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、CDなどで、音を聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。</p> <p>地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>教科書を開くと「はじめに」に次のように書かれています。</p> <p>「テキストを親しみやすいものにするために、かわいいハムスターとその飼い主家族の物語を展開させ、イラストもたくさん入れました。ハムスターのフォーマー君や熊のミーシカ君と一緒にロシア語の世界に遊んでみて下さい」と。ですから私たちも楽しく勉強することにしましょう。</p> <p>全13課で構成されていますので、2回の授業で1課分仕上げていくこととなります。ただし、これは希望的単純計算ですので、実際には臨機応変に緩急をつけていきます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>諫早勇一・服部文昭・大平陽一・伊ナ・メリコ 著 『セメスターのロシア語読本』(CD1枚付) 白水社刊</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 II b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前年度学んだ初級文法より詳しく体系的な文法を勉強しながら、読解力を付けるのが目的です。ロシアの気候、地理、料理、スポーツ・・・など様々なテーマの読み物を一緒に読んでいきましょう。しっかりと身に付いた読解力は会話と作文の場面に於いてもその真価を発揮してくれるはずですよ。</p> <p>辞書を引いて怠りなく予習すること。一生懸命勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>教科書は26課からなります。前期は1時間に1課、後期は1課につき2時間の予定です。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(出席回数、小テスト)と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>露和辞典必携</p>		
<p>[教科書]</p> <p>笹尾 道子他編「やさしいロシア語読本」(大学書林)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 1 0 1	通 期 通 期	2 単位 2 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標] 中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。	[講義計画] <前期> 復習編(一)～(五)及び応用編第1課～第5課 <後期> 応用編第6課～第14課			
[成績評価の方法] 平常点と前・後期の試験による。	[参考文献] 香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館			
[教科書] 丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	0 2 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	林 宏作 汪 暁 京
[講義概要・学習目標] 二年目の中国語の勉強は、いままで習ったことを復習しながら授業を進めていこうと思う。もっと聞き、もっと話し、より多く練習するうちに中国語に対する理解を深め、基礎を固める。総合的な中国語の能力を高めることを目指す。二年目も声を出して積極的な勉強は大事なことだ。 教科書「話す中国語 北京篇2」は日本人留学生の北京での生活がストーリーになっている。実用的な会話を学びながら北京現地でロケしたビデオも楽しめる。	[講義計画] <前期> 第1課～第10課 <後期> 第11課～第20課			
[成績評価の方法] 定期試験、平常点、出席などによる総合評価。	[参考文献] 辞書を一冊用意すること			
[教科書] 「話す中国語 北京篇2」 董燕 遠藤光暁 共著 (CD付き) 朝日出版社				

初修Ⅱ
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	03 03	通 期 通 期	2単位 2単位	サ 功 左 虹
[講義概要・学習目標] 中日両国の事情と文化及び両国の共通点と相違点を内容とするテキストの使用により、中国に対する理解を深めると共に、語学力を伸ばし、朗読、会話、作文の練習により、中国の発音、文法と表現を身に付くことを目標とする。	[講義計画] 前期： 中国語Ⅰで学んだ基礎を復習しながら「中国と日本」の学習に入る予定。テキストの第1課～第5課を目標とする。 後期： テキストの第6課～第12課を学習し、学んだ文法や文型などを活かし、作文を書くことの出来るよう計画する。			
[成績評価の方法] 定期試験のほか、レポート、平常点	[参考文献] 「中国語実習初期」、「中国語中級対話64」 白帝社 「中国語さらなる一歩」 白水社 辞書を購入すること			
[教科書] 「中国と日本」 村松恵子 董紅俊 龍神邦男 著 白帝社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	04 04	通 期 通 期	2単位 2単位	カ 伊 何 為
[講義概要・学習目標] 一年の時に習ったものを復習しながら、新しく出現する文法事項、表現文型を学び、より高度な会話力と読解力を身につけることが目標。実際練習を中心に適宜文法等の説明を加える。	[講義計画] 原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を修了する。			
[成績評価の方法] 試験の成績と平常点で総合評価する。	[参考文献] 「中国語辞書」 白帝社			
[教科書] 「話す中国語 北京編2」 董燕、遠藤光暁著 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 5 0 5	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ジョ コク ギョク 徐 国 玉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1年次で学んだ基本的な文法事項を再度確認、復習して、より詳しく体系的な文法を勉強します。併せて日常会話の能力を向上させるように「話す」「聞く」ことは反復練習を行います。 より詳しく体系的な文法を習得して、簡単な日常会話の能力を身につけることがこの授業の目標です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】 第1課～第 7課 【後期】 第8課～第14課</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は出席状況、授業態度、平素の小テストの評点または前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『精選日中・中日辞典』（東方書店）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『現代漢語基礎Ⅱ』（岩本真理・王占華など著 白帝社出版社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	0 6 0 6	通 期 通 期	2 単位 2 単位	陈 靖 国
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概要：《話す中国語・北京篇3》は、北京での留学生活に基づいた会話文からなっている。実際に役立つ言語学習教材である。 この授業では、実用的な中国語会話を覚え、その中で、洗練された文法を身に付け、活用できる中国語を把握していく。 情景会話と合わせて、中国事情、習俗などの勉強もする。 目標：中国語を覚える中で、中国を知る。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> ユニット1 ユニット2 <後期> ユニット3 ユニット4</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験と併せて、授業中練習、平常点、出席等による総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『中日・日中辞典』を一冊用意すること 出版社の指定なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>董 燕 / 遠藤光暁 著 《話す中国語・北京篇3》 朝日出版社</p>				

初修Ⅱ
~01